
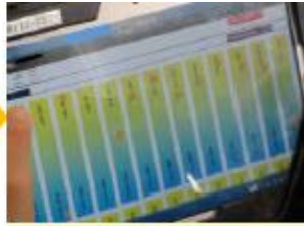


「松山の授業モデル」とICT活用（道徳科）

学習場面 (松山の授業モデル)	ICT活用例
<p>■ 学習課題の設定</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;">習得・活用・探究</p>	<p>導入における動機付けを図る場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入は、主題に対する児童・生徒の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る段階であると言われる。具体的には、本時の主題に関わる問題意識をもたせる導入、教材の内容に興味や関心をもたせる導入などが考えられる。そこで、例えば、児童・生徒にとって身近な生活の様子を大型提示装置に映像で提示したり（A1）、アンケート機能を活用して自動的にグラフとしてまとめられた結果を提示したり（B2）すると、本時の道徳科の学習の問題を自分の問題として受け止め、常に自分自身との関わりで考えることができやすくなる。 ・ねらいの根底にある道徳的価値に関わるニュースやドキュメンタリーなどの動画資料を視聴したり、新聞記事などを拡大表示したりすることが考えられる（A1）。導入はあくまでも動機付けを図る場面であることから、提示したい部分にのみ着目させることが可能であり、ICTを用いることで焦点化を図ることができる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>①規則を守るか、例外を認めるか、自分の考えをもつ。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>②他者の考えを知る</p> </div> </div>
<p>■ 交流し考える学習</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;">交流・表現・体験</p>	<p>展開における自己を見つめる場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳科の授業では、教科用図書を読み物教材等を活用して授業を行うことが多い。教材に描かれている道徳的価値に対する児童・生徒一人一人の感じ方や考え方を生かしたり、児童・生徒が物事を多面的・多角的に考えたり、自分との関わりで道徳的価値を理解したりして、自己を見つめるなどの学習が深まるようにする。そのためにも、道徳科の場合には、読み物教材の文章を正確に読み取ること以上に、その場面の状況をつかむことが重要になる。そこで、教材を提示する工夫として、読み物教材の場合は教師による読み聞かせが一般的に行われているが、その際、ICTを活用して、教材の場面の絵や写真を大きな画面に映し出しながら紙芝居の形で提示したり（A1）、音声や音楽の効果を生かしたり（A1）する工夫などが考えられる。また、ビデオなどの映像も、提示する（A1）内容を事前に吟味した上で生かすことによって効果が高められる。これらの工夫は、発達障がい等のある児童・生徒や海外から帰国した児童・生徒、日本語習得に困難のある児童・生徒等の学習上の困難さへの配慮としても大いに役立つことである。

■ 交流し考える学習

交流・表現・体験

- ・展開は、ねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な教材によって、児童・生徒一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる段階であると言われる。授業でねらいとする道徳的価値の意義について深く考えていく際には、話し合い活動を行うことも有効である。各グループで出された考えを学習者用コンピュータに書き込み、転送したものを大型提示装置等に提示して共有し（C1）、全体で意見交流をすることによって、より一層思考を深めることができる（C2）。
- ・展開では、中心となる発問について、ペアやグループで話し合うことも広く行われる。これら話し合い活動の主な目的は、焦点となっている事象や道徳的価値について各自の考えを述べ合うことで、焦点となっている事象や道徳的価値について多面的・多角的に考えられるようにすることである。その際、例えば、話し合い活動の前にワークシートに個々の考えを記入させ、それを画像として取り込み、話し合い活動時にそれらをタブレット型の学習者用コンピュータで閲覧することで新たな気づきを得られたり（C1）、考えを整理したりすること（C2）が考えられる。ワークシートを回し読みしたり、ミニホワイトボードを使用したりすることに比べ、短時間で全員の考えを共有できる点や視認性に優れる点が利点として考えられる。なお、タブレット型の学習者用コンピュータなどを使用する場合、児童・生徒は画面にばかりに気をとられ、友達の発言に耳を傾けることがおろそかになるなど、状況に応じてタブレット型の学習者用コンピュータを閲覧する時間と話し合う時間を区別するなど、話し合う態度にも留意する必要がある。

■ 学習の振り返り

内容×方法

終末における今後の発展につなぐ場面

- ・終末は、ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階であると言われる。学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめたり、学んだことを更に深く心にとどめたり、これからへの思いや課題について考えたりする学習活動が考えられる。つまり、展開の段階で読み物教材等を活用して学んだことがその読み物等の世界で止まらず、児童の生活に生かせるようにすることが大切である。例えば、児童・生徒の生活の様子を映像や写真で提示して振り返られるようにするためにICTの活用も効果を発揮する（B3）。また、遠隔教育システムを活用し、実際に授業に来ることができない地域の人等に授業参加してもらい、メッセージ等をもらうことで（C4）、学んだ道徳的価値を実践に生かそうとする意欲を高めることにもつながると考えられる。
- ・導入時に使用した映像資料、ポイントとなる児童・生徒の考えが書き込まれたワークシートなど拡大画像として全員で確認することで（A1）、自分の考えをまとめやすくなるのが考えられる。